

Optical Disc Archive Software Ver 5.5.3 をリリースします。

【Ver5.5.3 で対応した内容】

Windows

1. 脆弱性対応を行ないました。
2. ディスク管理領域の記録異常を起こしたカートリッジを ReadOnly マウントできるようにしました。
3. Windows11 の環境で Optical Disc Archive Filer でサイズ 0 のファイルを転送すると、ALARM 91-554 が発生する不具合を修正しました。

Linux

1. Red Hat Enterprise Linux 8.10 をサポートしました。
2. ディスク管理領域の記録異常を起こしたカートリッジを ReadOnly マウントできるようにしました。

Drive Firmware

今回は変更ありません。

ODS-D380U V1.220 を同梱しています。

ODS-D280U V2.610 を同梱しています。

ご注意：

ODS-D380U を接続した状態でコンピューターを起動、または再起動すると Optical Disc Archive Utility 画面に ODS-D380U が表示されないことがあります。

このような場合、ODS-D380U の電源を OFF→ON する、USB ケーブルを再接続する、あるいはコンピューターを起動後に ODS-D380U を接続してください。

【ODS-D280U、ODS-D280F、ODS-D380U、ODS-D380F を接続する PC 構成について】

ODS-D280U、ODS-D280F、ODS-D380U、ODS-D380F を接続する PC 推奨構成に関する情報は、機器に同梱のテクニカルノート「接続するコンピューターの推奨構成」を参照してください。

同様のドキュメントは、Product Resources Search - Sony Pro サイト

([https://pro.sony/en\\_GB/product-resources/product-resources-search](https://pro.sony/en_GB/product-resources/product-resources-search))

から対象機種名で検索して、テクニカルノートを入手してご確認ください。

【OLS-D500F を接続する PC 構成について】

OLS-D500F を接続する PC 推奨構成に関する情報は、機器に同梱のテクニカルノート「接続するコンピューターの推奨構成」を参照してください。

【ODS-D280U、ODS-D280F、ODS-D380U、ODS-D380F、OLS-D500F のアラームコードについて】

アラーム発生中にファームウェアのアップデートは行わないでください。

カートリッジの再挿入またはドライブ電源を off/on してアラームが解消されたことを確認後\*、ファームウェアのアップデートを行ってください。

\* アラームが解消されない場合は、ソニーの営業窓口にお問い合わせください。

Optical Disc Archive Software V5.2.0 より前のバージョンで 6D-001、21-100 が表示されたカートリッジは、V5.2.0 以降では 6D-002、21-101、21-102 が表示されます。

アラームコード 21-101、21-102、6D-002、91-556 の内容／発生時の対処方法は、以下の通りです。

コード：21-101

内容：メディアに何らかの問題が生じた可能性があります。別のカートリッジヘデータを移行されることを推奨します。

対処方法：

1. 同じカートリッジを挿入する。

参考：再度アラームコード 21-101 と共にカートリッジが自動排出された時は、アラームコード 21-102 が出るまでカートリッジを再挿入してください。

アラームコード 21-102 と共に読み出し専用でマウントされます。

2. 別のカートリッジヘデータを移行する。

参考：データの移行には、Optical Disc Archive Utility の ファイル修復またはボリューム複製機能を用いてください。

詳細は、Optical Disc Archive Utility のヘルプを参照してください。

注意：カートリッジ排出後、再度カートリッジを挿入し メディアへのアクセス時に

メディアに何らかの問題が生じた可能性を検出した場合、6D-002 のアラームコードが発生します。

コード：21-102

内容：このカートリッジは読み出し専用でマウントされました。別のカートリッジヘデータを移行されることを推奨します。

対処方法：

1. 読み出し専用でマウントされるので、この状態で別のカートリッジヘデータを移行する。

参考：データの移行には、Optical Disc Archive Utility の ファイル修復 またはボリューム複製機能を用いてください。

詳細は、Optical Disc Archive Utility のヘルプを参照してください。

注意：カートリッジ排出後、再度カートリッジを挿入し メディアへのアクセス時に

メディアに何らかの問題が生じた可能性を検出した場合、6D-002 のアラームコードが発生します。

コード：6D-002

内容：メディアに何らかの問題が生じた可能性があります。別のカートリッジヘデータを移行されることを推奨します。

対処方法：

1. EJECT ボタンを押してカートリッジを排出する。

2. 同じカートリッジを挿入する。（これを2回繰り返す）

参考：アラームコード 21-101 と共にカートリッジは自動排出されます。

3. 再度カートリッジを挿入する。

参考：アラームコード 21-102 が発生しカートリッジが読み出し専用でマウントされます。

4. 別のカートリッジヘデータを移行する。

参考：データの移行には、Optical Disc Archive Utility の ファイル修復 またはボリューム複製機能を用いてください。

詳細は、Optical Disc Archive Utility のヘルプを参照してください。

注意：カートリッジ排出後、再度カートリッジを挿入し メディアへのアクセス時に

メディアに何らかの問題が生じた可能性を検出した場合、再度 6D-002 のアラームコードが発生します。

コード：91-556

内容：このカートリッジは読み出し専用でマウントされました。別のカートリッジヘデータを移行されることを推奨します。

対処方法：

1. 読み出し専用でマウントされるので、この状態で別のカートリッジヘデータを移行する。

参考：データの移行には、Optical Disc Archive Utility Filer、Optical Disc Archive Utility の ファイル修復 またはボリューム複製機能を用いてください。

詳細は、Optical Disc Archive Filer、Optical Disc Archive Utility のヘルプを参照してください。

#### 【動作環境】

##### ・ 対応 OS

注意) Windows には注意すべき制限事項がありますので、末尾「Windows 環境について」を参照ください。

##### ・ ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U/ODS-D380U

###### Windows

Microsoft Windows 10 Pro 64 ビット版 ※1

Microsoft Windows 11 Pro 64 ビット版

Microsoft Windows Server 2019 ※2

Microsoft Windows Server 2022

###### Linux

Red Hat Enterprise Linux 8.8 64bit

Red Hat Enterprise Linux 8.10 64bit

###### Mac

サポート対象外。

##### ・ ODS-D77F/ODS-D280F/ODS-D380F/OLS-D500F

###### Windows

Microsoft Windows Server 2019 ※2

Microsoft Windows Server 2022

###### Linux

Red Hat Enterprise Linux 8.8 64bit

Red Hat Enterprise Linux 8.10 64bit

※1 OS のサポート終了日以降は、Microsoft 社から提供されている Windows 10 の拡張セキュリティ更新プログラム (ESU) の購入が必要です。

※2 OS のサポート終了日以降は、Microsoft 社から提供されている Windows Server 2019 の拡張セキュリティ更新プログラム (ESU) の購入が必要です。

- ・ CPU

- ・ ODS-D55U、ODS-D77U、ODS-D77F

Intel Core 2 Duo 2.66GHz または Intel Xeon 2.0GHz 以上

- ・ ODS-D280U、ODS-D280F

3rd Generation Intel Core i5 2.5GHz または Intel Xeon 2.27GHz 以上

- ・ ODS-D380U、ODS-D380F、OLS-D500F

6th Generation Intel Core i5 2.3GHz または Intel Xeon 2.0GHz 以上

- ・ Memory

- ・ ODS-D55U、ODS-D77U、ODS-D77F

2GB × (接続台数+1) 以上

- ・ ODS-D280U、ODS-D280F、ODS-D380U、ODS-D380F、OLS-D500F

4GB × (接続台数+1) 以上

- ・ HDD の空き容量

- ・ ODS-D55U、ODS-D77U、ODS-D77F

32GB + 16GB × (接続台数+1) 以上

- ・ ODS-D280U、ODS-D280F

32GB + 32GB × (接続台数+1) 以上

- ・ ODS-D380U、ODS-D380F、OLS-D500F

64GB + 64GB × (接続台数+1) 以上

- ・ 接続インターフェイスについて

- ・ ODS-D55U/ODS-D77U

下記 USB 規格に対応しています。

- ・ Hi-Speed USB (USB 2.0)

本機との接続には、Hi-Speed USB (USB 2.0) ホストコントローラーが必要です。

- ・ SuperSpeed USB (USB 3.2)

本機との接続には、SuperSpeed USB ホストコントローラーが必要です。

- ・ ODS-D280U

下記 USB 規格に対応しています。

- ・ SuperSpeed USB (USB 3.2)

本機との接続には、SuperSpeed USB ホストコントローラーが必要です。

- ・ ODS-D380U

下記 USB 規格に対応しています。

- ・ SuperSpeed USB 10Gbps (USB 3.2) 対応

本機との接続には、SuperSpeed USB 10Gbps (USB 3.2) ホストコントローラーが必要です。

- ・ SuperSpeed USB (USB 3.2)

本機との接続には、SuperSpeed USB ホストコントローラーが必要です。

- ・ ODS-D77F/ODS-D280F/ODS-D380F

ODS-D77F、ODS-D280F、ODS-D380F と接続する推奨ファイバーチャネル用ホストバスアダプターは以下にな

ります。

Linux で QLogic のホストバスアダプターをご使用の際は、QLogic の FC Driver を v10.01.00.53.07.6-k 以降に更新してください。

ODS-D77F :

- ・ QLE2560/QLE2562 (QLogic 8Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe12000/LPe12002 (Emulex 8Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)

ODS-D280F :

- ・ QLE2560/QLE2562 (QLogic 8Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ QLE2690/QLE2692 (QLogic 16Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ QLE2740/QLE2742 (QLogic 32Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ QLE2770/QLE2772 (QLogic 32Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe12000/LPe12002 (Emulex 8Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe31000/LPe31002 (Emulex 16Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe32000/LPe32002 (Emulex 32Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe35000/LPe35002 (Emulex 32Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)

ODS-D380F/OLS-D500F :

- ・ QLE2560/QLE2562 (QLogic 8Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ QLE2690/QLE2692 (QLogic 16Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ QLE2740/QLE2742 (QLogic 32Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ QLE2770/QLE2772 (QLogic 32Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe12000/LPe12002 (Emulex 8Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe31000/LPe31002 (Emulex 16Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe32000/LPe32002 (Emulex 32Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)
- ・ LPe35000/LPe35002 (Emulex 32Gbps Fibre Channel Host Bus Adapter)

ご注意 :

この【動作環境】は、すべての PC に適用されるものではありません。

=====

## 1. Optical Disc Archive Software のインストール方法

Windows)

1. バージョンアップを含め再インストールする場合は、「プログラムの追加と削除」から「Optical Disc Archive Software」を完全に削除して、PC を再起動してください。
2. ODASoftware\_5\_5\_3\_win.zip を解凍して、ODASoftware\_5\_5\_3\_win.exe ファイルを実行してください。  
順次表示される指示に従って操作すると、Optical Disc Archive Software 及び Optical Disc Archive Utility がインストールされます。なお、ユーザー設定値は初期化されます。
3. Optical Disc Archive Utility を起動して、ODS-D55U/ODS-D77U/ODS-D280U/ODS-D380U のファームウェアの

バージョンを確認し、必要に応じてアップデートしてください。ODS-D77F/ODS-D280F/ODS-D380F/OLS-D500F のファームウェアアップデートについては、サービス担当者にお問い合わせください。

- ・ 'Z' を超えるドライブレターに機器が割り当てられている場合、Optical Disc Archive Software の動作に不具合が起こることがあります。

Linux)

1. ODASoftware\_5\_5\_3\_rhel.zip を解凍して、ODASoftware\_5\_5\_3\_rhel.bin ファイルを実行してください。  
順次表示される指示に従って操作すると、Optical Disc Archive Software 及び Optical Disc Archive Utility がインストールされます。
  2. Optical Disc Archive Software のインストールが完了したら、ユーティリティーソフトウェアを起動してデバイスのファームウェアのバージョンを確認し、必要に応じてアップデートしてください。ODS-D77F/ODS-D280F/ODS-D380F/OLS-D500F のファームウェアアップデートについては、サービス担当者にお問い合わせください。
- ・ Optical Disc Archive Software をコンピューターにインストールせずに機器を接続すると、コンピューターの動作に支障を来すことがあります。これを避けるためには、機器をコンピューターに接続する前に、あらかじめ Optical Disc Archive Software をインストールしてください。  
もし、コンピューターの動作に異常が見られる場合は、コンピューターをシャットダウンし、機器とコンピューターの接続を外し、コンピューターを再度立ち上げ、本ソフトウェアをインストールしてください。  
その後、機器とコンピューターを接続してください。
  - ・ あらかじめカートリッジを取り出してからインストールを行なってください。
  - ・ アップデートインストールを行うと Optical Disc Archive Software およびユーティリティーソフトウェアは、上書きされます。設定項目は、新しいバージョンをインストールした後も継承されます。
  - ・ Optical Disc Archive Software をアンインストールした後、新しいバージョンの Optical Disc Archive Software をインストールすると、それ以前の設定項目は初期化されます。
  - ・ やむなく再インストールする際は、以下の手順に従ってインストール済みの RPM パッケージをアンインストールした後、 ODASoftware\_5\_5\_3\_rhel.bin ファイルを実行して下さい。

#### [RPM パッケージアンインストール手順]

-以下のコマンドにてインストール済みの RPM パッケージの確認を行う。

```
>rpm -qa | grep odaudf
odaudf-utility-5.5.3-8.el6.x86_64
odaudf-5.5.3-8.el6.x86_64
odaudf-utility-gui-5.5.3-8.el6.x86_64
```

-root 権限にて以下のコマンドにて各 RPM パッケージのアンインストールを行う。

```
>rpm -e odaudf-utility-gui-5.5.3-8.el6.x86_64
```

```
>rpm -e odaudf-utility-5.5.3-8.el6.x86_64
```

```
>rpm -e odaudf-5.5.3-8.el6.x86_64
```

・Optical Disc Archive Software のインストールに際し下記のソフトウェアをインストールする必要があります。

apr

apr-util

sh

bzip2-libs

dbus-glib

fuse-libs

glib2

glibc

libapr

libaprutil

libc

libdl

libdbus

libfuse

libgcc

libm

libpthread

librt

libstdc++

lsof

zip

pciutils

chkconfig

fontconfig

freetype

initscripts

libX11

libXext

libXrender

rpm-lib

rtld

zlib

(対応ファームウェアバージョン)

ODS-D55U:V1.300

ODS-D77U:V2.200

ODS-D280U:V2. 610

ODS-D380U:V1. 220

## 2. Optical Disc Archive Software について

- ・ Optical Disc Archive Software Ver4.0.0 以降で記録したカートリッジは、Ver3.4.1 以前で記録できません。  
Ver4.0.0 以降で記録したカートリッジに追記記録を行う場合は、必ず Ver4.0.0 以降の Optical Disc Archive Software を ご使用ください。

- ・ Optical Disc Archive Software と一部のアンチウイルスソフトウェア、スパイウェア対策ソフトを同時にインストールすると動作が不安定になる場合があります。

Windows 環境において動作確認済みのアンチウイルスソフトウェアは以下になります。

Symantec

Endpoint Protection 14.3.5413.3000 RU3

Trellix (旧 McAfee)

Trellix Endpoint Security 10.7

McAfee : 1.31.148

ESET : 18.2.14.0

Microsoft Defender

- ・ Optical Disc Archive Software と OS 標準以外の UDF2.5 または UDF2.6 ファイルシステムドライバを含む製品を同時にインストールすると動作が不安定になる場合があります。
- ・ OS 標準の UDF2.5 または UDF2.6 ファイルシステムドライバであっても稀に機器を認識できなくなる事があります。  
その場合は再度カートリッジの出し入れを行なうか、若しくは機器と PC との接続し直しで解消する事があります。
- ・ ODS-D55U、ODS-D77U、ODS-D280U、ODS-D380U は、USB ケーブルを通じて給電することはできません。  
また、最大接続台数は 4 台です。USB ハブ経由の接続には動作保証していません。
- ・ PC の推奨設定  
自動スリープを解除した状態でご使用ください。  
Windows)
  - ・ エクスプローラーの縮小版表示のオフ  
[コントロールパネル]>[フォルダーオプション]>「表示タブ」の「詳細設定」で[常にアイコンを表示し、縮小版は表示しない]のチェックボックスをオン
  - ・ スリープ設定をオフ  
[コントロールパネル]>[電源オプション]>[コンピューターがスリープ状態になる時間を変更]>「コンピューターをスリープ状態にする」を「なし」に設定
  - ・ USB セレクティブサスペンド設定の無効化



[コントロールパネル]>[電源オプション]>[プラン設定の変更]>[詳細な電源設定の変更]のプルダウンメニューからアクティブな電源プランを選択し、[ USB 設定]>[ USB のセレクティブ サスペンドの設定]内の [バッテリー駆動]と[電源に接続]を[無効]に設定

詳細は Optical Disc Archive Utility のヘルプガイド内の「PC 推奨設定」を参照ください。

- ・【動作環境】の Memory は Optical Disc Archive Software が動作する目安であり、メモリーを消費するようなサービス/アプリケーション等を併せてご使用する場合は別途増設を検討ください。
- ・複数のクライアントで ODS ドライブを直接共有するような使い方はサポートしていません。
- ・Linux 環境において KDE デスクトップ環境はサポートしていません。
- ・Linux 環境にて cp コマンドではスパースファイルが記録できないことがあります。そのような場合はオプション“--sparse=never”を設定して実行してください。

### 3. Optical Disc Archive Utility について

#### ・起動

Windows)

スタートメニューの Sony Optical Disc Archive Software から Optical Disc Archive Utility を選択して起動してください。

Linux)

アプリケーションメニューの システムツール から Optical Disc Archive Utility を選択して起動してください。

#### ・ファームウェアについて (ODS-D55U、ODS-D77U、ODS-D280、ODS-D380U の場合)

更新する際はあらかじめカートリッジを取り出してから更新を行なってください。

更新中は機器本体および PC の電源を切ったり、接続ケーブルを抜き差ししないでください。

更新が終了した際は、機器の電源を入れ直す必要があります。

下位のバージョンへのダウングレードはできません。

#### ・ファイル修復機能について

本ソフトウェアの修復機能は、あらゆる破損状態からの修復を保証するものではありません。

注意)

V5.5.0 より前のバージョンの Windows 版 Optical Disc Archive Utility は ODC5500R においてのみ、ファイル修復に失敗したり、ファイル修復は終了するが正しく修復されていないファイルができる場合があることがわかりました。そのため、ODC5500R のファイル修復を Windows 版で行う場合は V5.5.0 以降のバージョンをご使用下さい。

#### ・ボリュームチェック機能について

ボリュームチェックを実施するときは、他の操作は行わないでください。ボリュームチェックを正しく実行できない可能性があります。

- ・ ログの Export 機能とファイル修復、ボリューム複製について  
ネットワークドライブはサポートしていません。  
zip コマンドをサポートしている環境にてご使用ください

#### 4. Optical Disc Archive Filer について

- ・ 起動

Windows)

スタートメニューの Sony Optical Disc Archive Software から Optical Disc Archive Filer を選択して起動してください。

- ・ ボリュームラベルの表示について

Windows)

Unicode2.0 で最大 32 文字まで。サロゲートペアは 2 文字として数えます。

- ・ ODS ドライブの接続台数について

同時に Optical Disc Archive Filer から制御可能な ODS ドライブは最大 4 台となります。

- ・ ファイル転送操作の制限について

ローカルボリュームからローカルボリュームへの転送、及び同一 Optical Disc Archive ボリューム内の転送を禁じています。

また、Optical Disc Archive カートリッジ 1 巻分をまとめて PC 上のローカルストレージへ転送する機能では、カートリッジシリアル番号が付加されたフォルダー名でフォルダーが自動で作成されます。なお、コンピューターのローカルボリューム上に、既に Optical Disc Archive Drive のカートリッジシリアル番号付きのボリューム名と同じ名称のフォルダーが存在する場合は、カートリッジのボリューム全体を転送することはできません。この場合、ローカルボリュームに存在するフォルダー名の末尾に、\_org を付加するなどの変更を行なった上で重複しないようにしてから、Optical Disc Archive カートリッジ 1 巻分をまとめて転送してください。

以下のファイルは、表示およびアーカイブできません。

.DS\_Store

.\_ で始まるファイル

.\_ で始まるファイル

以下のフォルダーは、表示およびアーカイブできません。

.Trashes

.TemporaryItems

.Spotlight-V100

.fsevents

System Volume Information

- ・ LT0 9 データカートリッジや SMB I/F を持つストレージへのデータ転送について (Windows 版のみ)  
バージョン 5.5.1 の Optical Disc Archive Filer では、Optical Disc Archive カートリッジのデータを、

UNITEX 社製 LT0-9 ドライブ「LT90H」に挿入されたデータカートリッジ、もしくは、SMB I/F を持つ、NAS ストレージ機器へ転送することが出来ます。

なお、LT0 9 データカートリッジから Optical Disc Archive カートリッジへの転送、LT0 9 データカートリッジから Optical Disc Archive カートリッジ以外のストレージへの転送は、サポートしていません。

・ FTP サーバーからのアーカイブについて

動作確認済み機器は以下になります。

XDS-PD2000

XDS-PD1000

PMW-1000

PDW-HD1550

PDW-HD1500

PDW-1500

PDW-HR1

SR-R1000

【アプリケーションソフトウェアに関する注意事項】

- ・ Content Manager 1.0 は ODS-D77U をサポートしていません。
- ・ Content Manager 1.0/2.0 は、ODS-D77F をサポートしていません。
- ・ Content Manager 2.0.2、File Manager 2.2、および Web Service for ODS 2.2 と Optical Disc Archive Software 3.0.0 および 3.0.1 の組み合わせでご使用になる場合各アプリケーションにてドライバーのバージョン情報が正確に表示されません。  
そのような場合は、Optical Disc Archive Utility からバージョン情報を確認して下さい。

【PC の設定】

自己暗号化ドライブ管理サービス（ドライブ用セキュリティ管理ソフトウェア）などのストレージ管理ソフトについても、一時的に無効にする事をお勧めします。

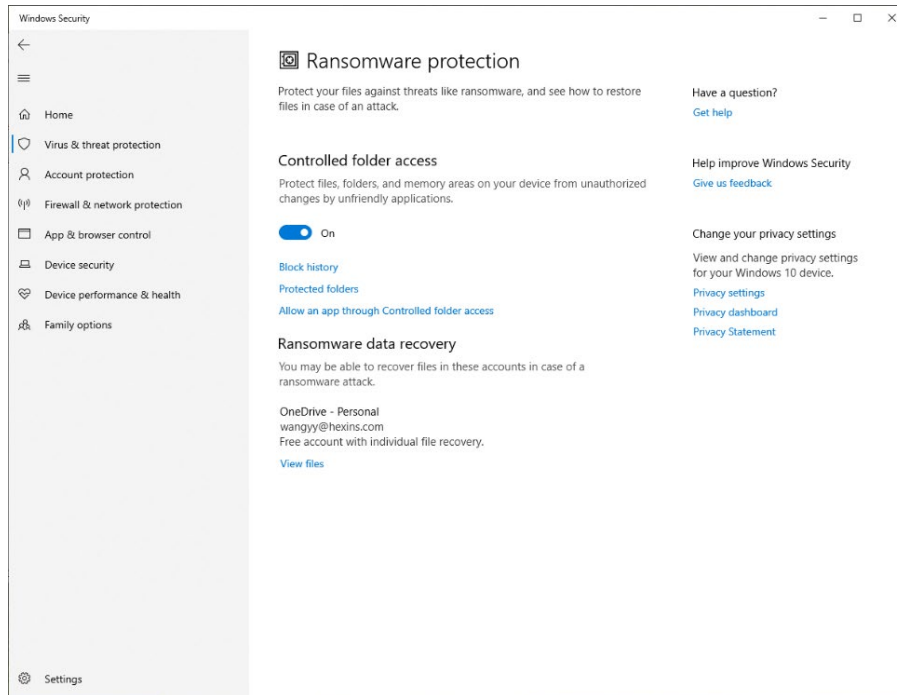
・ 不具合の例

DELL 社製ワークステーションに搭載される TDM Service のバージョンによっては、アーカイブ、リトリートに失敗する場合があります。その場合は、上記のソフトウェアを無効にするか、別の PC で操作を行ってください。

【Windows 環境について】

Windows10 および Windows11 に導入された Defender の新機能による影響について、ご案内いたします。

Defender に「ランサムウェアの防止」機能が搭載されましたが、Windows Security 画面の「ランサムウェア防止設定」の中で、コントロールされたフォルダーアクセスが『ON』に設定されていると、Optical Disc Archive Software は正常に動作しないことがあります。



動作しない場合は、下記の5つのソフトウェアを「許可されたアプリを追加する」に加えてください。

フォルダー : C:\Program Files (x86)\Sony\Optical Disc Archive Software

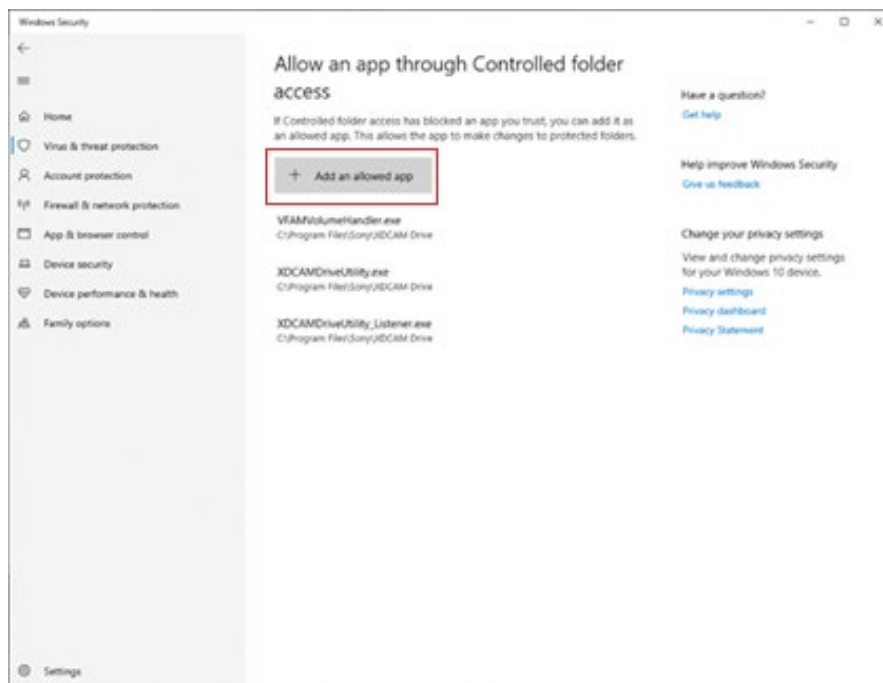
アプリケーションソフトウェア : ODAWriterHandler.exe

ODAUtility.exe

ODAUtility\_Listener.exe

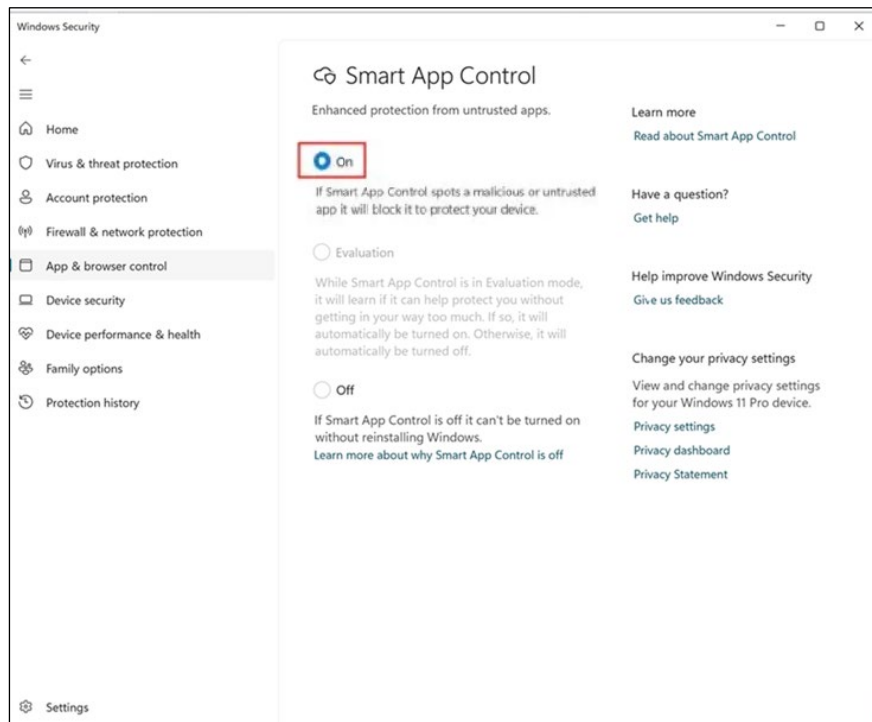
ODAUtility\_Helper.exe

ODAFiler.exe



- ・ Windows11 22H2 から導入された Smart App Control (SAC) による影響について、ご案内いたします。  
Windows11 22H2 から利用可能になりましたスマートアプリコントロール (Smart App Control、以下 SAC と略) が「オン」に設定されている場合、Optical Disc Archive Utility や Filer アプリケーションを起動すると「このアプリの一部がブロックされています」と表示されることがあります。これは、SAC によって、そ

のアプリのデジタル署名をクラウド上でチェックできない場合などで発生します。



SAC の主な仕様は以下となります。

1. Windows11 22H2 以前のバージョンからアップグレードした PC では SAC は有効化されません。
2. Windows11 22H2 を新規インストールした PC は最初に評価モードとなります。評価モード中は、影響ありませんが、評価モード中に Windows が PC の使われ方を学習した結果、ON にすると判断した場合、SAC が ON となります。
3. SAC が評価モードの判断で ON となった後、SAC を手動で OFF に変更すると、永続的に OFF となります。

もし、「このアプリの一部がブロックされています」が表示された場合、

- ・インターネットに接続することで、ご使用になれます。
- ・インターネットに接続できない環境でご使用になりたい場合は、一度、インターネットに接続した状態で、本ソフトウェアを一度、アンインストールして、再インストールしてください。その後、Windows OS を再起動して、本ソフトウェアの Utility アプリケーションがブロックされずに起動すること確認してください。以後はネットワークを接続せずにご使用できるようになります。

なお、SAC 機能自体を OFF して無効化することも可能ですが、セキュリティを担保するための機能のため、推奨しません。

<ご参考>

Windows 22H2 以降が初期セットアップされた PC や、OS をクリーンインストールした PC は、SAC 機能が有効化される場合があります。

#### ・ Windows Server 2019 の旧バージョンの制約について

Windows Server 2019 Version 1809 (OS Build 17763.379) 以前の古いバージョンの OS では、Optical Disc Archive Utility が起動しないことがあります。その場合は、Microsoft Update で OS を更新してください。Version 1809 (OS Build 17763.7678) で改善されることを確認済みです。